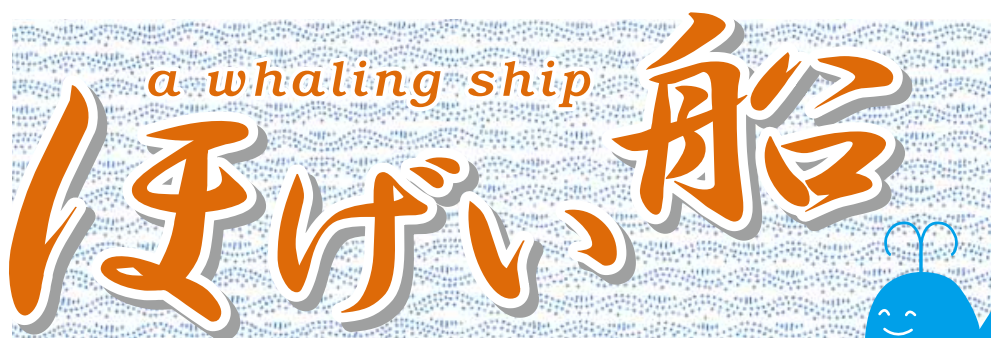




基本理念
私達は心のこもった医療を行い、地域に信頼される病院とします。
独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

良質の医師を 確保するには



NHO 高知病院 院長
大串 文隆

高知県は統計によると医師数が全国でも多いとされていますが、高知病院においては医師不足が顕著でその確保に苦労しているのが実情です。また、医師の高齢化も進んでおり、近い将来今以上に厳しい状況になることが想定されています。令和にはいり、複数の医師が突然、病院を去ることとなりました。従来から高知病院では徳島大学、高知大学から医師の派遣を受けていますが、一般的に人事は4月に行われますので、年度途中からの派遣は難しいのが現状です。また、加えて大学の診療科における医師不足も深刻で外の病院に派遣する余力が以前に比べて極端に低下してきており、その一因は初期臨床研修制度の導入によるといわれています。つまり、従来型の卒業後直接入局という流れが変更され、初期研修終了後に専門を決めるようになり働く病院や大学を自らが選択することが可能になりました。また、専門医制度も多くの問題を抱えながらも開始されています。

これらのことにより地方の大学医局への入局者が以前に比較し著明に減少し、その結果、当然病院への医師派遣も難しくなっています。地域の医師の確保のため高知県、徳島県においても地域枠を設け地域に残る医師を増やすように努力していますが期待通りには行かないようです。一方、当院にとっての問題は高知大学の地域枠の医師は義務年限が終わるまで地域での勤務が義務付けられておりますし、徳島大学の地域枠の医師は県外にはくことはできませんので、後期研修医が高知病院で勤務できる可能性は低くなっています。ここ数年は辛抱しなければならない時期と思っています。どうして若い医師は都会に集まるのでしょうか？まず、地方大学には都

会からきている学生が多いようですので、卒業後地元に戻るという図式になります。以前は大学の卒業生はほとんど、卒業大学に残って博士号をとるのが一般的でしたが、今は博士号には興味を示さない人が多く専門医取得の方の希望が強いです。その意味から都市部の病院へ集中しているのではないかと思います。政府もこの医師の偏在化に対処するため都市集中の解消に取り組んでいますが、簡単に解決できる問題ではないように思います。

高知病院の基本理念は「こころのこもった医療を行い地域に信頼される病院になる」ことで、このためには地域の皆さんに選んでもらえる病院でなければなりませんし、医師確保の点からは患者さんに選ばれる病院であることと同じように、医師にも選ばれる病院であることが重要です。医師の派遣を大学に依頼に行った時にはいつも病院の業績が話題になります。昔は医局から関連病院への出張を言われたときには不満があっても方針に従ってくれましたが、現在は事情が異なり行きたくない病院なら簡単に断るそうです。つまり、医師が働きたいと思う病院にならねばなりません。どのような病院を若い先生が望むのかは、はっきりしませんが働きやすい環境で多くの症例や実績があり臨床力がつく病院であることは必要不可欠なことと思います。このような病院を作ることが良質の医師確保の近道であり、また、他の職種の確保にも繋がっていくことと思います。

2年目を迎えて



看護師
伊井 円香

去年入職し、4月より2年目を迎えました。1年目は目まぐるしい日々の連続で、病棟の患者さんや環境に慣れる事に必死だったように思います。重症心身障害児（者）病棟に配属となり、患者さんの表情や状態などから情報を読み取ることが難しく、関わり方もとても不安でした。しかし、先輩方が一つ一つ丁寧に教えてくださり少しずつ関わりやケアを行えるようになり、とても嬉しく感じています。1北病棟では患者さんが季節を感じたり、楽しんで自分らしく生活していけるよう、誕生日会や遠足・つくしまつりなど様々な行事があります。そこでは、いつも病棟で見る患者さんとは違い、笑顔溢れる様子や声を出して喜ぶ姿なども見られ、一緒に喜びを分かちあうことが出来て看護師になって本当に良かったと思う場面です。

まだまだ、知識や技術には不安な所も沢山ありますが、疾患や症状また、治療などを関連づけて観察し、アセスメントして個別性に合わせた看護がしていけるように学習を深めていきたいです。また、患者さんやご家族の立場にたつて、思いを汲めるような看護師になれるよう精進していきます。



看護師になって 2年目になりました!



看護師
近藤 澄子

私は、社会人経験を経て看護学校に入学し、看護師の免許を取得しました。取得するまでには、大変な苦勞もありましたが家族や友人、教員の方々の支えがあり、無事看護師になることができました。

看護師になって、この1年を振り返ってみると、怒涛の一年でした。初めての採血、ルート確保では、見た目が新人に見えない分、患者さんより「あんたみたいなベテランにやってもらったら安心や」とプレッシャーもすごく、手に汗握りながら実施していました。

毎日が緊張と不安の連続で、押し潰されそうになることもありましたがプリセプターやサポートナース、周りの先輩の方々に支えて頂き、2年目を迎えることができました。

日々看護する中で、精神的にも体力的にも辛い時はあり

ますが、患者さんの笑顔や感謝の言葉が、看護師としてのやりがいや生きがいとなっています。まだまだ、先輩のようにはいきませんが、スキルや知識、看護師としての人間力を磨いていきたいと思っています。そして、私の目指す「患者さんの苦痛を取り除き、安楽を与え生きる力を引き出す看護」ができるよう、日々努力しながら、精進して参ります。



ご存知ですか?当院には がん相談窓口があります



副看護師長
(がん性疼痛看護認定看護師)
長浦 英世

当院はがん診療連携推進病院です。高知県がん診療拠点病院である高知大学医学部附属病院と連携し、がん診療における様々な取り組みに参加しています。がん相談窓口もその一つです。平成28年～30年度における年間相談件数の平均は640件でした。

当院で相談を受ける内容として多いのは、精神的不安や経済的な問題、今後の治療をどうしていきたいか等です。ホスピス・緩和ケアのご相談にも応じています。



がんと診断された時や、治療の経過で患者さんやそのご家族の精神的負担は非常に大きいものと思います。また、先の見えない不安は漠然としたものが多く、自分自身、何をどうしていいかが分からないという混沌とした状況に陥ることもあります。話すことは、自身の思いを整理することでもあり、誰かに話すことで少しだけ気持ちが楽になることもあります。まず、その漠然とした不安を、相談員にお話しされてみませんか。

相談してみたいとお考えになられたら、当院地域医療連携室・がん相談支援センターへご連絡ください。相談員がすぐ対応できない場合もありますので事前にご希望の日時を予約いただく事をお勧めします。患者さんはもちろん、そのご家族や知人の方、当院で受診していない方でもどなたでも対応させていただきます。

ご連絡先

がん相談窓口 : 088-828-4465
地域医療連携室・がん相談支援センター

健康フェスタ2019を開催しました



職員係長
和田 吉弘

令和元年6月1日（土）に今年も健康フェスタを開催しました。

今年は改元の年でもあり、例年5月に開催していたフェスタを6月に行い雨が心配されましたが、朝から天気に恵まれ、約600名の方にご参加いただきました。

今回のテーマは「令和元年！笑顔で元気！！いい健康！！」です。地域の皆様の健康をサポートするとともに親しまれる病院づくりを目指して、実際に国立病院機構高知病院に足を運んでいただいて、ご家族や友人と一緒に年齢に関係なく健康について考えていただくという思いを反映させたテーマでした。



オープニングは、今年初めてご参加いただいた、くろみ幼稚園のみなさんによる歌、ダンスでした。一生懸命に可愛い歌とダンスを披露していただき、来場された方々に元気を分けてくれました。

その後、各ブースによる特徴を生かした体験コーナー等の催し物が始まりました。

アロママッサージ、手洗い体験、救急処置法・AED体験、手術室見学ツアー、妊婦・高齢者体験、ベビーマッサージなどの定番コーナー、その他にも筋肉などを測定するサルコペニアチェックや骨密度検査、肺機能検査、看護に関する展示などが催され、

また今年の放射線でははじめてマンモグラフィ検診を行いました。

気になるところを医療スタッフに相談できる健康相談では、参加者がたくさん押し寄せて、賑わいを見せました。子供たちには、お菓子で調剤体験、白衣や看護衣をまとうて未来のドクター、ナースに変身しての写真撮影や、キッズコーナーでの手形足形アートの制作、ちびっ子けんこうクイズに参加してヨーヨー釣りや手作りガチャボンのプレゼントなどが人気でした。

また、これらの各コーナーを回るとスタンプがもらえ、大人5個、こども3個でアイスクリンやジュースと交換ができるスタンプラリー企画では、当日の暑さもあり、アイスクリンなどが子供たちを中心に大人気でした。

JA高知県のみなさん、高知大学教育学部附属特別支援学校のみなさん、高知県立春野高等学校のみなさんに出店していただいた販売コーナーは、売り切れるほど大好評でした。



市民公開講座では「がん早期発見は検診から」をテーマに3人の医師が前立腺がん、子宮がん、乳がんについて分かりやすく解説を行い、来場された皆様も真剣に聞いていました。とても評判の良い講演となりました。市民公開講座や健康相談に参加いただいた方に、高知県健康パスポートのポイントシールを配布

したところ、こちらも好評でした。また、はじめて講師の医師のイラストの入ったポケットティッシュを配布したところ、よく似ていると評判でした。

今年も警察関係者や消防関係者のみなさんなどからもご協力を頂き、白バイ・救急車・消防車などの展示、乗車体験をしていただきました。安全運転サポートカーの乗車体験が出来るコーナーでは、こども、大人を問わず人気で、フェスタを盛り上げて頂きました。

起震車による揺れ体験もありました。震度7までの実際の際の揺れを体験できるとあって、かなりの方に関心をもって体験していただき、地域の皆様の防災学習、訓練の一助となりました。

高知県のゆるキャラ「くろしおくん」が来てくれました。くろしおくんが出てきた瞬間から周りに人が集まり大好評でした。



エンディングは当院の附属看護学校のみなさんにコーラスをして頂きました。フルートやピアノの演奏や、手話をまじえた合唱曲「ふるさと」に観客の皆さんも参加したり、楽しいセッションをしていただきました。今年のフェスもいよいよ終了するなと思いながら、素晴らしいコーラスを最後は一緒に楽しむことができました。

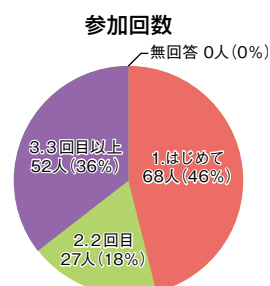
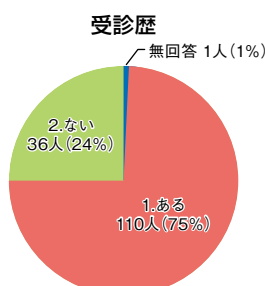
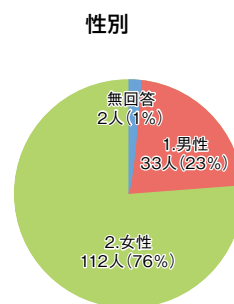
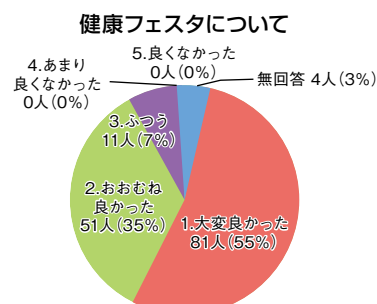
来場者より頂いたアンケートでは、「大変良かった」、「おおむね良かった」という回答が9割と概ね好評だったと思います。今年は特に家族連れや子供たちが多い印象でした。また、「楽しみながら健康の事がわかってよかった。」「ハンドマッサージでげんきになりました。」「フィナーレもあたたかい気持ちになりました。」「色々な検査ができてよかった。ほかの検査もしてみたい。」「子ども達がとても楽しんでいました。」「手術室体験ツアーも手術道具を見られて良かったです。」「公開講座は他の胃、大腸等も聞きたい。」などのうれしいご意見をいただきました。当院を受診されたことがない方が3割程度、初めてのご参加の方も4割程度いらっしゃるなど、地域の皆様の健康をサポートするとともに親しまれる病院づくりの一助になったと思います。

最後になりましたが、フェスタ開催にあたってご協力して頂いた多くの皆様、また、ご来場して頂いた多くの方々に対して改めて厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。



アンケート結果



令和元年度 「つくしまつり」を 開催しました



児童指導員
栗山 百合恵

5月25日（土）、重症心身障害病棟でつくしまつりがありました。今回のつくしまつりは令和の時代になって初めての行事。

院長からの挨拶後、会場のもんで一緒にカウントダウン「5、4、3、2、1、スタート」というかけ声とともにつくしまつりが始まりました。

会場には今年もたくさんのお店が並びました。親の会によるバザー、若草特別支援学校さん、売店さん、雑貨屋さん。そして、今年も外部より作業所土佐さんによる雑貨販売や南風堂さんによるパンやお菓子などの販売にお越しいただきました。利用者の皆さん、ご家族はたくさんの品物があり、どれを買おうか迷いながらお買いものを楽しま

れていました。

今回のステージはオープニングに高知大学奇術部さんによるバルーンアートやマジック、ジャグリング。エンディングでは高知県立大学手話サークルさんによる手話コーラスを披露していただきました。そして、ステージだけではなく奇術部の皆さんには会場でバルーンアートやカードマジック。手話サークルさんには病棟の方でミニコンサート。それぞれの場所でたくさんの笑顔が見られ、素敵なステージとなりました。

高知病院附属看護学校のボランティアの皆さんのご協力もあり利用者の皆さんの笑顔溢れるつくしまつりとなりました。ありがとうございました。



助産師のお仕事紹介



看護師長
岡林 裕恵

当院には現在 26 名の助産師がいます。助産師は分娩だけでなく妊娠中から出産後まで、すべての時期で母子に関わり、良質で安全な分娩・家族関係形成への支援を行っています。その一つとして数十年以上続いている妊婦教室があります。医師や栄養士も講師となり 4 コース行っています。平日開催のため、ご家族も参加できるパパママ教室を月 1 回土曜日に開催し、昨年度の参加者数は延べ 74 名でした。また、現役助産師が講師のマタニティー・ヨガも隔月で行っています。

助産師外来では妊婦全員に妊娠各期での保健

指導を行い、不安が軽減できるようにしています。また、正常経過の妊婦を対象にした“ほほえみ外来”では医師の協力を得て助産師主体での妊娠期からのケアを行っています。

出産後の母乳育児支援にも定評があり「授乳で困っているとき声を掛けてくれて心強かった」との声を頂いています。

退院後は赤ちゃんの体重チェックや乳房マッサージで産後のフォローを行っています。他院で出産した方も参加できるベビーマッサージは好評で憩いと交流の場となっています。



赤ちゃんのお風呂

パパママ教室



院内での活動以外にも力を注ぎ、高知県看護協会助産師職能から依頼を受けた“いのちの教室”では中・高校生を対象に年間15件程度の出前授業をしています。妊娠中に授業をした助産師が、出産後同じ学校に赤ちゃんを連れて行き授業をしたこともあります。お産の現場を知りつくしている助産師だからこそ語れる内容は学生たちの心を動かしています。

また、当院には6名のアドバンス助産師がいます。アドバンス助産師とは日本助産評価機構で認証され、助産実践能力の質を保証された助産師のこと

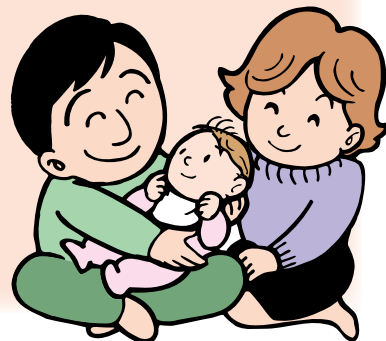
です。専門職として自己研鑽を重ねることができることは素晴らしいと思っています。

今年6月に出席した日本看護協会通常総会では、少子化を背景に全国的に産科混合病棟が増加し、切れ目ないケアの提供体制がさまたげられる危険性が取り上げられました。人ごとではない思いがしています。当院でも分娩は徐々に減少し、ハイリスク妊婦が急増しています。安心・安全な出産環境について検討しながら、より良い看護が提供できるよう努めてまいります。

ベビーマッサージ



マタニティー・ヨーガ



平成31年度
中国四国グループ内

新採用職員研修会



栄養士

河野 夏生恵

昨年11月より勤務させていただいております栄養士の河野夏生恵と申します。この度、岡山県で開催された「平成31年度中国四国グループ内新採用職員研修会」に参加させていただきました。

1日目の全体研修では、接遇マナーや案件処理について講習を受け、社会人としてのマナーや仕事をする上での優先順位の考え方などを学びました。2日目の職種別研修では、

栄養士の役割や具体的な職務内容、疾患ガイドラインに基づいた栄養管理などについてのグループワークや講習を受け、臨床栄養について学びを深めました。また栄養指導について、患者さんに食事療法に取り組んでいただくためには、患者さんに対する言葉選びや態度などが重要であることを学びました。

この2日間で、普段は関わることの少ない他職種や他施設の方々の話を聞くことができ、とても良い刺激となりました。今後は今回の研修で得た知識・体験を活かし、日々の職務に取り組んでいきたいと思っています。



医事係

紙本 歩実

この度、4月19日～20日の2日間、岡山県で「平成31年度中国四国グループ内新採用職員研修会」が開催され、中国四国グループ内の病院に今年度採用されたコメディカル職員・事務職員が約180名集まる研修会に参加させていただきました。

初日に全職員対象の接遇マナー研修、インバスケ研修が行われました。

インバスケ研修のグループワークでは、仕事で複数の案件を抱えた場合に限られた時間の中で優先順位をつけ、処理を行うトレーニングゲームを実施し、優先順位を瞬時につけるには、問題発見力、問題分析力、洞察力、

意思決定力など、様々な能力の必要性を感じました。

2日目は、各職種に分かれて講義が行われ、事務の講義内容は、国立病院機構の役割、医療、中期計画等・会計制度について・事務職員の所掌事務について・文書の処理方法について・医療保険制度・医療関連法規などでした。事務職として知っておくべき内容でも、まだまだ知らない事が多いため、とても有意義な時間でした。

講義はもちろん、グループワークなどで様々な職種の方々と意見交換をすることで、医療が成り立っていると改めて感じたので、今回交流した他施設・他職種の方とのできた繋がりを大切に、本研修で学んだことを日々の業務に活かしながら、精一杯精進して参ります。

職員の異動

4月2日付～7月1日付の人事異動（常勤）



退職

▶H31.6.30

看護師

上田 麻弥

▶H31.6.30

看護師

山川 円

感染管理室だより

健康フェスタ

「感染対策は手洗いから」



副看護師長
(感染管理認定看護師)
河村 ひとみ

6月1日の健康フェスタでは、今年も1階エレベーター横で「手洗い体験」を実施しました。手に蛍光塗料を塗った後、石鹸と流水での手洗いをし、その後ブラックライトにかざすと洗い残しの部分が光って見えるので、洗い残しを目で見て確認してもらうことができます。

今年は、244名の方が「手洗い体験」に参加してくれました。参加された方からは「全然洗えてなかった」「楽しかった」「子供が洗えているかわかってよかった」などの感想を聞くことができました。就学前の年代の子供たちは丁寧に洗っているようであっても、洗い残しがたくさん見られていることが多く、保護者の方は「手洗いの練習をしようと思う」など話されていました。参加者の方の中には、洗い残しがなくなるまで、繰り返し手を洗って確認されている方もいらっしゃいました。また、運営側として参加してくれた附属看護学校の学生にとっては、指導する経験ができてよい学習の機会となりました。

病院内だけでなく、家庭や学校での日常的な感染対策として手洗いは大変重要です。指の間や爪

の先、掌のしわなどに洗い残しが多いと言われています。しっかり石鹸を泡立てて、洗にくい所は意識的に洗うことが大切です。

手をきれいにする方法は、流水と石鹸による手洗いの他にアルコール手指消毒薬がありますが、病原体によってはアルコールが効きにくいものがあるので注意が必要です。ノロウイルスはエンペローブという脂質性の膜を持たないため、アルコールが効きにくいです。クロストリジウム・ディフィシルは、アルコール存在下では「芽胞」という厚い殻を形成し、アルコールは効きません。どちらも、それらの病原体で汚染したままの手で接触をすることにより、汚染した手を介して感染が拡がりやすいと言われています。便や嘔吐物などを扱った後は、「アルコールが効かない病原体が手に付着しているかもしれない」と考えて、流水と石鹸でしっかり手を洗うことが伝播予防のために重要です。



蛍光塗料を手全体に伸ばします。



流水と石鹸で手を洗います。



ブラックライトに手をかざすと…



白く光っている所がきちんと洗えていない所です！



医療安全管理室だより

医療安全定期ラウンドの 取り組み



医療安全管理係長
山本 三恵

医療事故を起こさないための安全対策には、未然に防ぐ（事故が起こらないための予防策を実践）、同じ事故の発生を予防する（発生してしまった事故の原因を分析し、改善策を立て、実践することで予防を図る）の2通りがあります。いずれも、現場での取り組みが重要視されており、継続した取り組みができているかの評価が医療安全管理室に求められています。

そこで、平成28年度から医療安全管理係長による院内定期ラウンドを開始しています。病棟・外来等はそれぞれ年に1回、コメディカル部門は3ヶ月に1回実施しています。ラウンドチェックは病棟用とコメディカル用を作成し、主に確認行動の遵守状況、安全な環境・システム作りができているかチェックしています。さらに、ラウンドした部署で以前に発生した事故の改善策が継続できているかも確認しています。

今年度からは、病棟用ラウンドチェック表を修正し、各病棟を月に2回ラウンドするよう変更しました。チェッ

ク内容は、「①患者のベッド周りの環境が安全か」「②認知症患者のベッドには昇降側の反対側は2点柵とし、柵と柵の間が安全な間隔になっているか」「③患者誤認予防策がとれているか」「④救急カートの中身はマニュアル通りか」の4点に絞りました。

実践した結果は、ベッド周囲は患者1人1人の病態を考えた環境調整になっていました。これは『ベッドまわりでの転倒・転落防止対策フローチャート』の効果と考えます。患者確認行動では、同姓患者の存在をスタッフに周知する方法が実践できているかをチェックしました。結果は、実践できていない部署が半数ほどありました。これら以外には、救急カートの中身が手順通りに整理できていない部署が多くみられました。ラウンドの結果はその場で部署長にフィードバックしています。短時間では改善されなくても、時間をかけて何度も指摘することで、安全が構築できることを期待しております。

安全な医療活動は医療法で定められております。それに従い、安全な環境、意識改革が重要です。その一環として、ラウンドを開始しました。決してあら探しではありません。安全な医療活動を推進するためですので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



どれ どれ
中身は手順
通りかな？

看護学校だより

令和元年度 春季防火・
防災訓練を実施して教員
山本 美由紀

5月31日(金)の午後に防火・防災訓練を実施しました。訓練に向けて学生の防災委員が中心になって消火栓の使用方法の周知を行い、学年で訓練の目標を立てて取り組みました。

「大きな地震が発生し、それに伴い火災が起きた」という想定は例年と同じですが、地震発生から火災発生までの時間をあけて地震発生時の安全確認・避難誘導・避難の訓練も行いました。1年生にとっては初めての訓練であり、消火栓を用いてスムーズに放水することができなかったり、避難経路を間違えそうになったりしていましたが実際に行くことで自身の行動を振り返るきっかけとなったようです。避難状況は教員が撮影し、その動画を見て振り返りを行いました。他の学年の行動の様子を見ることで訓練を繰り返し行うことで行動が少しずつ変わっていくことを実感したようです。また、目標を持って臨んだことで以前の訓練より真剣に取り組めたとの学生の意見も聞かれました。教員もシナリオはなく、実際に起こった時と同じように各自が考え行動することで学生への指示の出し方や安全確認の方法について課題が見えた訓練となりました。

訓練後には、高知市地域防災課の北川さんから「高知市の防災対策」についてご講義いただきました。災害時の「自助・共助・公助」について学び、それぞれが生活の中で何ができるか考える時間となりました。

消火栓での
初期消火は
複数で協力
することが
大事！



煙を吸わないように
低い姿勢で避難中



初期消火の
重要性と煙
の怖さを実
感しました



ローリングス
トックや家具の
固定はさっそく
家族と実践して
いきます



また、看護学校では毎月15日に災害時に学生の被災状況をいち早く情報集約できるようにWeb171の登録訓練も行っています。家族との連絡にも活用できるサービスなのでみなさんも取り組んでみてはいかがでしょうか？(毎月1日・15日等に体験ができます)

もしものために今できることは何かを学生とともに考えながらこれからも備えを行っていききたいと思います。

家族等の安全がインターネット上で確認できる。
「災害用伝言板web171」

画面の指示によりご利用ください。

登録方法	閲覧方法
1 https://www.web171.jp にアクセス	1 https://www.web171.jp にアクセス
2 電話番号を入力 (XXXXXXXXXX) ※「地域の電話番号」・「携帯電話・PHSの電話番号」を入力してください ※市外局番から入力してください	2 電話番号を入力 (XXXXXXXXXX) ※「地域の電話番号」・「携帯電話・PHSの電話番号」を入力してください ※市外局番から入力してください
3 画面の指示に従って、文字による伝言を登録してください	3 画面の指示に従って、文字による伝言の追加登録をしてください

地域医療連携室だより 市民公開講座(健康フェスタ)

看護師長
西本 美香



今年の健康フェスタでは、「がん早期発見は検診から」をテーマに「前立腺癌、乳癌、子宮体癌」について、最近の治療予防について講演を実施しました。地域の方が参加し、1階外来ホールが満席となり、盛況に行うことができました。

「前立腺癌」については、泌尿器科医長 渡邊裕修医師が講義を行いました。前立腺癌の罹患患者は社会の高齢化、食生活の欧米化と共に、PSA検査の普及で、男性癌のうち1番増加していること。また、進行癌で見つかる患者が多いため、年に1回は検診が必要であるなど、早期発見・早期治療の重要性について分かりやすく教えて頂きました。

「乳癌」については、乳腺科 本田純子医師が講義を行いました。乳癌の罹患患者は女性癌では1番多く、11人に1人が乳癌に罹患すること。乳癌の早期発見のためには2年

に1回乳癌検診を受けることが大切であること、自己検診の方法、マンモグラフィーについて分かりやすく教えて頂きました。

「子宮頸癌」は、婦人科医長 木下宏実医師が講義を行いました。子宮頸癌の検診は、20歳以上で受診間隔は2年に1度が推奨されていること。当院の検診の年齢や進行度についてデータを示して分かりやすく教えて頂きました。

がん検診は、癌の罹患率、死亡率を減少させるための施策とされています。今回の市民公開講座を通し、検診を受ける人が少しでも増えてほしいと熱望しています。また、講演後は、参加者からの質問も多く、活発な質疑応答が行われました。アンケート結果でも、「医師の検診の話が分かりやすかった。分かりやすく説明してくれたので理解できた。毎年楽しみにしている。」と好評な意見を頂き大変うれしく思っています。今回も、真剣に聞いている受講者の姿に、市民公開講座を行う意義を改めて実感いたしました。今年度は、参加者に講師の似顔絵(長浦がん看護チーム認定看護師作)付きテッシュと、健康パスポートシールを配布し好評を得ることができました。来年度も、受講者に楽しんで頂けるような企画に取り組んで行きたいと思います。



第161回高知病診連携フォーラムのご案内【令和元年9月12日(木)】

特別講演「(仮)糖尿病薬の使い分け」

● 演者：高知記念病院 糖尿病内科 池田 幸雄 先生

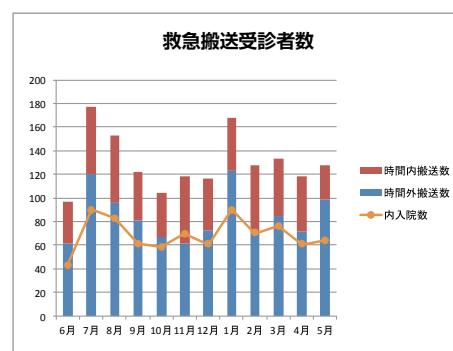
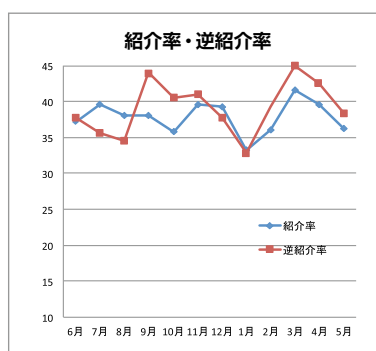
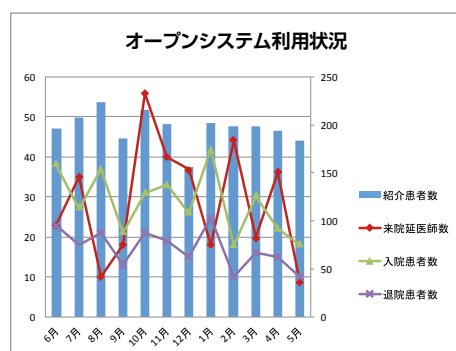
場所：国立病院機構高知病院 2階地域医療研修センター

問い合わせ先：地域医療連携室 088-828-4465

ご参加お待ちしております。

自由参加
です

高知病院地域連携等概況



外来診療担当医表

(令和元年7月1日現在)

■受付時間 8:00~11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<http://www.kochihp.com>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前	1 診 ⑫	岩原 義人	山崎 隆志	井上 修志	篠原 勉 (2・4・5週休診)
		特別外来 ⑪	松森 (糖尿病)	岩原 (血液)	松森 (糖尿病)	岩原 (内科)
	午後	専門外来			化学物質過敏症 (予約制)	
神経内科		⑪	不定期 (院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)			
呼吸器内科 アレルギー科	午前	1 診 ⑧	岡野 義夫	大串 文隆 (予約制)	畠山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)
		2 診 ⑥		森田・矢貫 (隔週)		町田 久典
		3 診 ⑫				
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30 (予約制)
消化器内科	午前	⑨	笠井 昭成	池田 敬洋	井上 修志	岡崎 潤
循環器内科	午前	⑦	山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志
	午後	⑦			伊藤 いづみ 受付13:30~16:00	ペースメーカー (第2木曜)
リウマチ科		⑩	松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約のみ)	
小児科	午前	1 診 ①	大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	小倉 英郎
		2 診 ②	佐藤 哲也	武市 知己	佐藤 哲也	武市 知己
		3 診 ③	井上 和男	濱本 諒	小倉 由紀子	井上 和男
	午後	専門外来	慢性疾患 アレルギー	神経・アレルギー (第2火曜 医大循環器)	乳児健診	アレルギー NICU フォローアップ
		予防接種	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)
外科 消化器外科 小児外科	午前	⑤ ⑥	浅野間 理仁	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)
	午後	専門外来	浅野間 理仁 (ヘルニア外来) 受付15:00まで	福山 充俊 (乳腺外来)		福山 充俊 (乳腺外来)
呼吸器外科	午前	⑧ ⑦		先山 正二 日野 弘之		先山 正二 日野 弘之
	午後	⑧			本田 純子 受付15:30まで	本田 純子 受付15:30まで
整形外科	午前	① (1・3・5週のみ 予約制 2・4週 通常診察)	福田 昇司		川口 真司	福田 昇司
		②	川口 真司 (2・4週休診)			
	午後	②	骨粗鬆症 (予約制) 13:00~15:00			田村 竜也 (予約制)
脳神経外科	午前	1 診 ⑧			非常勤 9:00~11:00 (予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい	
皮膚科	午前	⑬	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前	⑨ ⑦	渡邊 裕修 佐竹 宏文 診察開始 10:00~	島本 力	佐竹 宏文	渡邊 裕修
						島本 力 診察開始 10:00~
産科	午前	⑳	滝川 稚也	滝川 稚也	今泉 絢貴 1ヶ月検診	今泉 絢貴
	午後					産科特殊外来 (予約制)
婦人科	午前	㉑	木下 宏実	今泉 絢貴	木下 宏実	滝川 稚也
	午後			クーポンがん検診 (予約制) 10:30~11:30		クーポンがん検診 (予約制) 10:30~11:30
眼科	午前	㉒	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑯	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤
放射線科			塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文

※内科の1診は、月曜日から木曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。

※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外科までお問い合わせください。

※当日の受付は午前11:00までとなっております。